２０２１年度島根県の被保険者及び医療費等の状況

２０２１年度の全保険者のデータを含む「ＮＤＢデータ」(※)を基に、本県の被保険者及び医療費等の現状をとりまとめたものです。

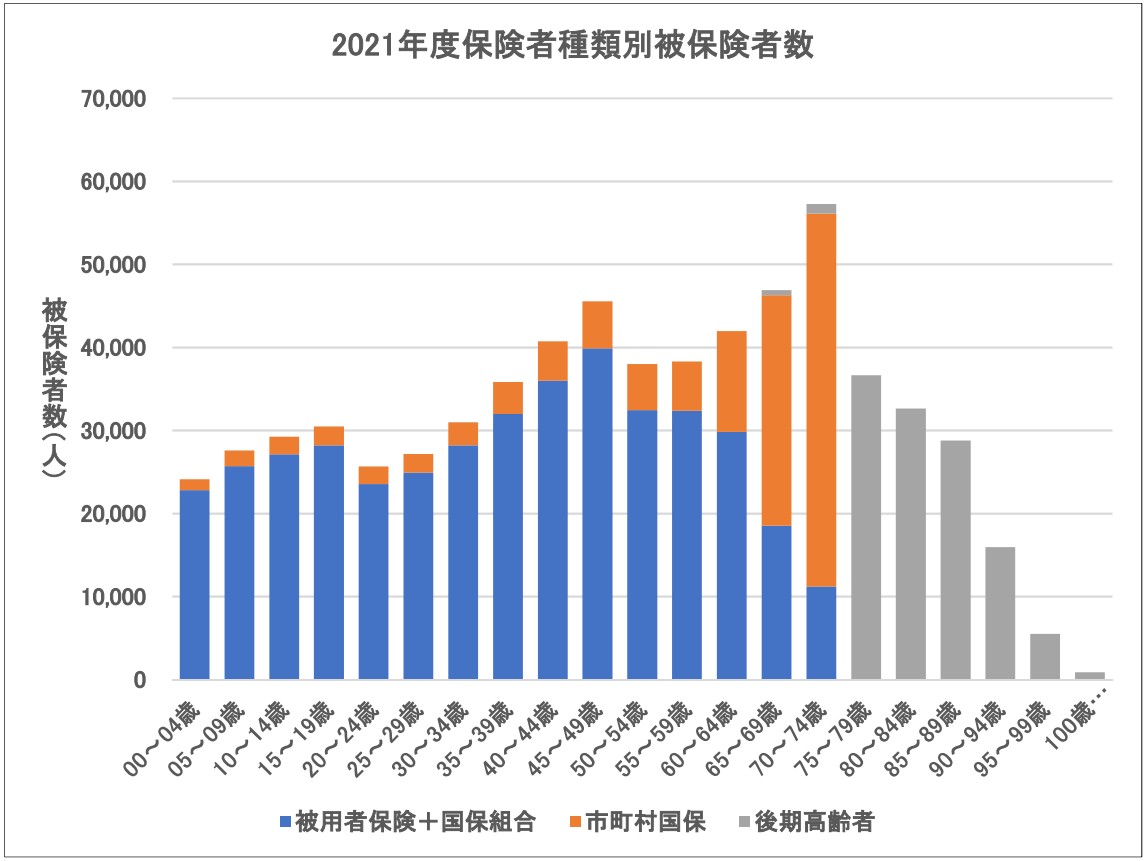
※厚生労働省所管の電子化されたレセプト情報並びに特定健診・特定保健指導情報を蓄積したデータ「レセプト情報・特定健診等情報データ」の通称

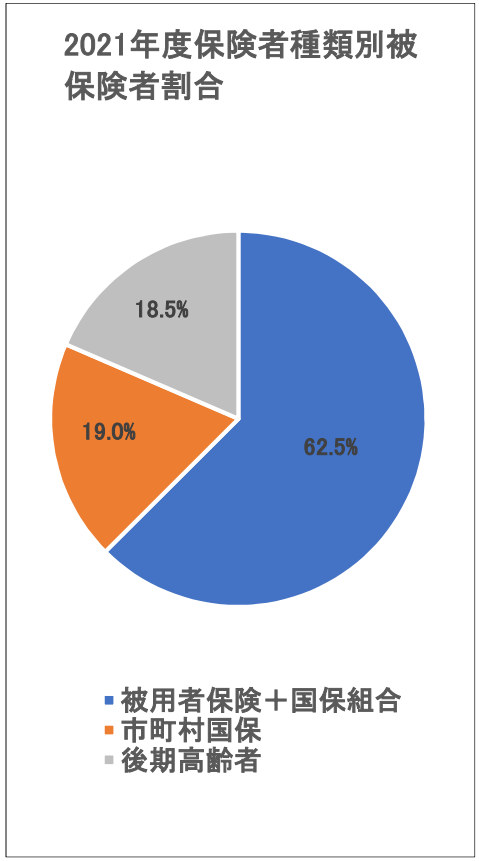
１．島根県の保険者種類別被保険者数　・・・・・　Ｐ．１
２．島根県の年齢階層別医療費等　・・・・・　Ｐ．２
（１）入院医療費　・・・・・　Ｐ．２
（２）入院外医療費　・・・・・　Ｐ．３
（３）年代別医療費　・・・・・　Ｐ．３
３．島根県の疾病分類別医療費等　・・・・・　Ｐ．４
（１）入院医療費等　・・・・・　Ｐ．４
①入院医療費　・・・・・　Ｐ．４
②入院件数　・・・・・　Ｐ．９
（２）入院外医療費等　・・・・・　Ｐ.12
①入院外医療費　・・・・・　Ｐ.12
②入院外件数　・・・・・　Ｐ.17
４．医療費等に関するまとめ　・・・・・　Ｐ.20

１. 島根県の保険者種類別被保険者数

６４歳までは被用者保険（国保組合を含む）の被保険者(※)が大部分。
国保の被保険者は前期高齢者（６５～７４歳）での割合が大きく、前期高齢者は国保被保険者の５８％を占める。
被保険者のうち被用者保険が62.5%、国保が19.0%、後期高齢者が18.5%を占める。

※被用者保険の被保険者には、被扶養者を含む。



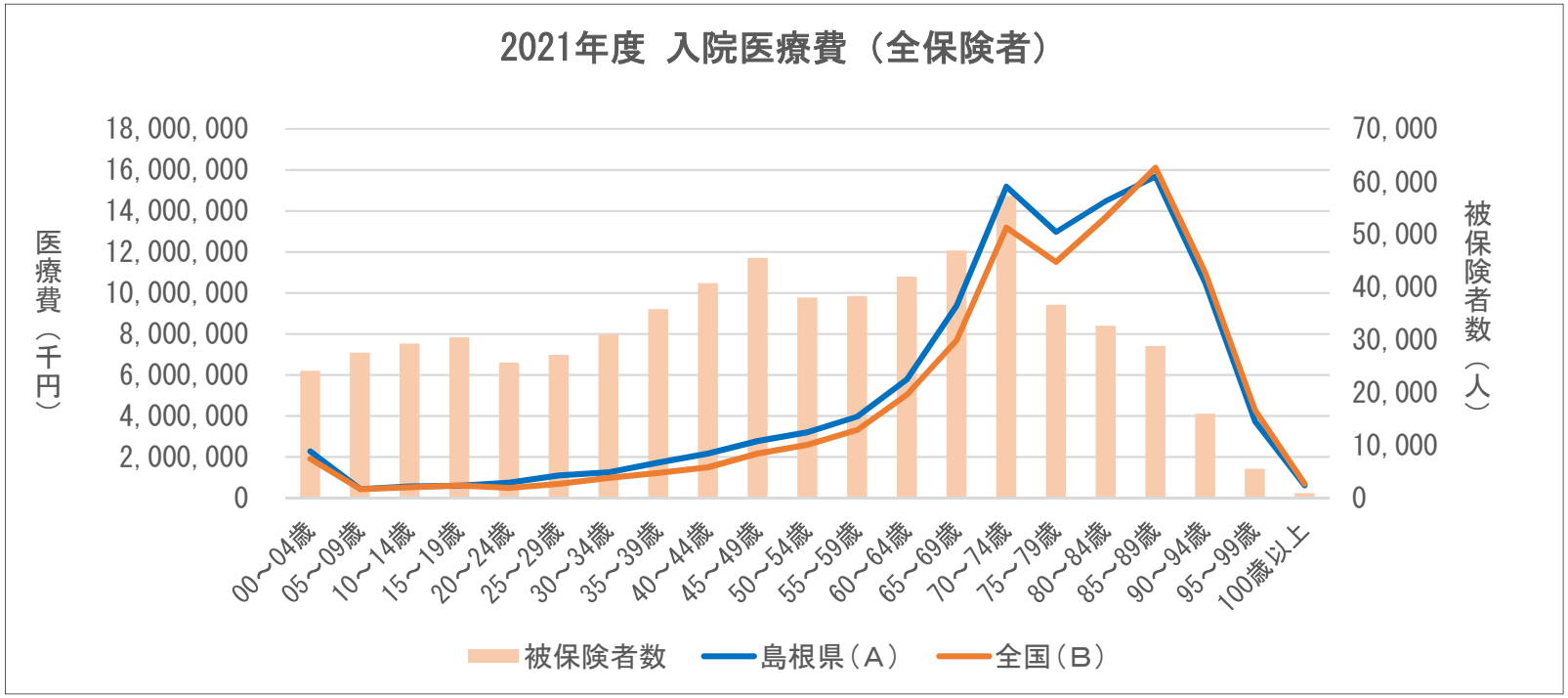


※ＮＤＢデータを基に作成

２. 島根県の年齢階層別医療費等

（１）入院医療費

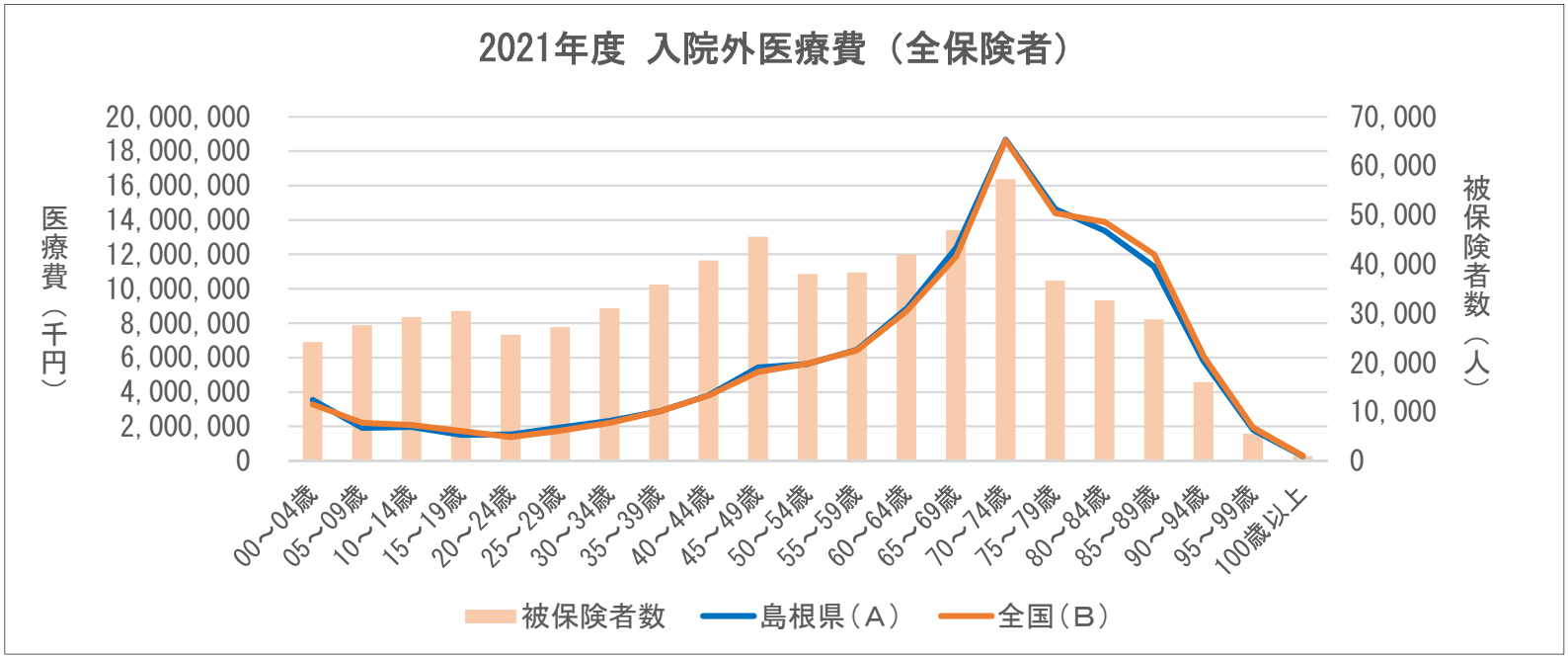
・入院医療費は、60歳代から急激に増加、被保険者数が減少しても85～89歳の年齢階層まで多い状態が続き、さらに高齢になると減少する。
・金額は全国平均の1.1倍程度。
・75～79歳の年齢階層までは本県の医療費が全国平均よりも多く、85～89歳より高齢になると本県の方が少なくなっている。
・高齢になって介護認定を受け、医療保険から介護保険での対応に変わること等が原因として考えられる。



※１．ＮＤＢデータを基に作成（以下、入院外医療費及び年代別医療費についても同じ）
※２.被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、医療費が折れ線グラフ（目盛は左）
※３．全国の金額は、全国の被保険者１人当たり年齢階層別医療費に島根県の年齢階層別被保険者数に乗じて計算

（２）入院外医療費

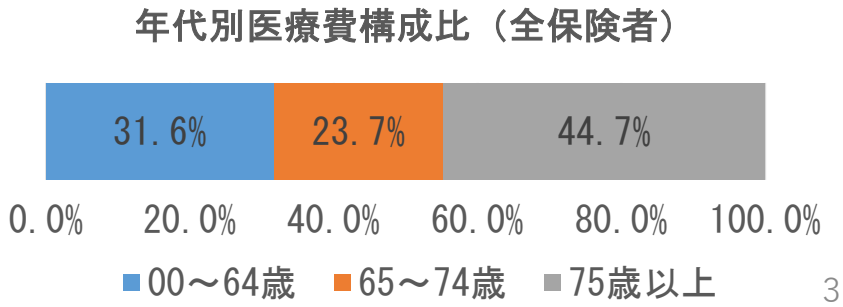
・入院外医療費は、全国平均とほぼ同額。
・45～49歳の年齢階層から大きく増加し、70～74歳の年齢階層をピークに被保険者数の減少と共に減少する。



※１. 被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、医療費が折れ線グラフ（目盛は左）
※２. 全国の金額は、全国の被保険者１人当たり年齢階層別医療費を島根県の年齢階層別被保険者数に乗じて計算

（３）年代別医療費

・全被保険者の18.5%である後期高齢者（75歳以上）が、医療費全体の44.7%を占める。
・前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者の合計額が全体の68.4%を占める。



３. 島根県の疾病分類別医療費等

以下は、全保険者を対象としたＮＤＢデータを基に作成したもの。

（１）入院医療費等

①入院医療費

・入院医療費が多い疾患は、「循環器系の疾患」、「新生物」、「損傷、中毒及びその他外因の影響」、「神経系の疾患」、「精神及び行動の障害」と続く。
・疾病分類別入院医療費のうち、「新生物」、「神経系の疾患」、「精神及び行動の障害」及び「内分泌、栄養及び代謝疾患」が全国平均を大きく上回っている。

※全国の数値は、全国の年齢階層別１人当たり医療費に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した金額

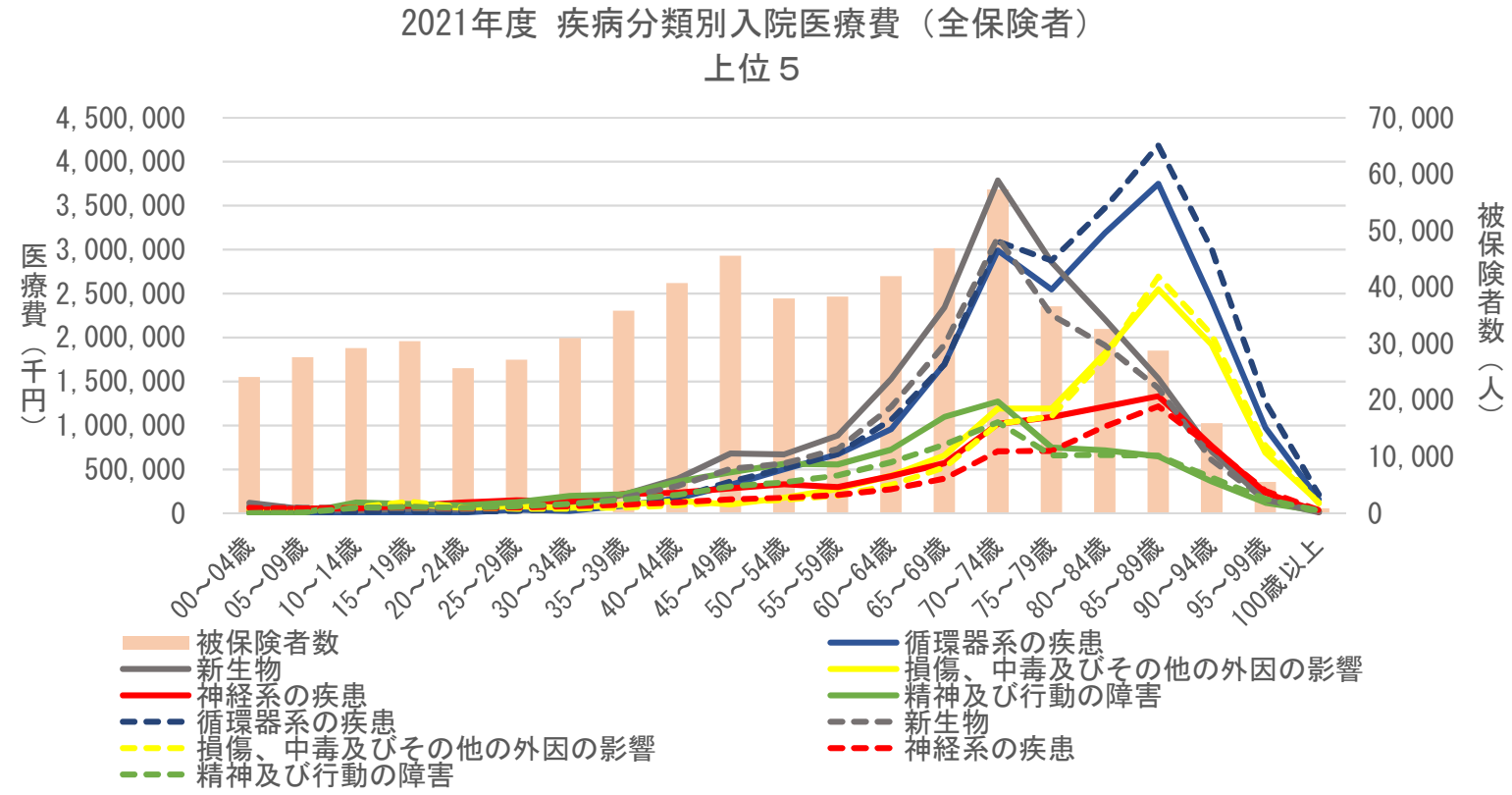
2021年度 疾病分類別入院医療費（全保険者）

（単位：百万円）

	循環器系の疾患	新生物	損傷、中毒及びその他の外因の影響	神経系の疾患	精神及び行動の障害	筋骨格系及び結合組織の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	その他	全疾病計
島根県(A)	20,535	18,432	11,831	8,673	8,516	7,321	6,033	5,483	4,633	3,502	14,234	109,194
全国(B)	22,869	15,405	11,425	6,560	6,824	7,363	5,812	5,724	4,287	2,718	10,611	99,597
A／B	89.8%	119.7%	103.6%	132.2%	124.8%	99.4%	103.8%	95.8%	108.1%	128.9%	134.2%	109.6%

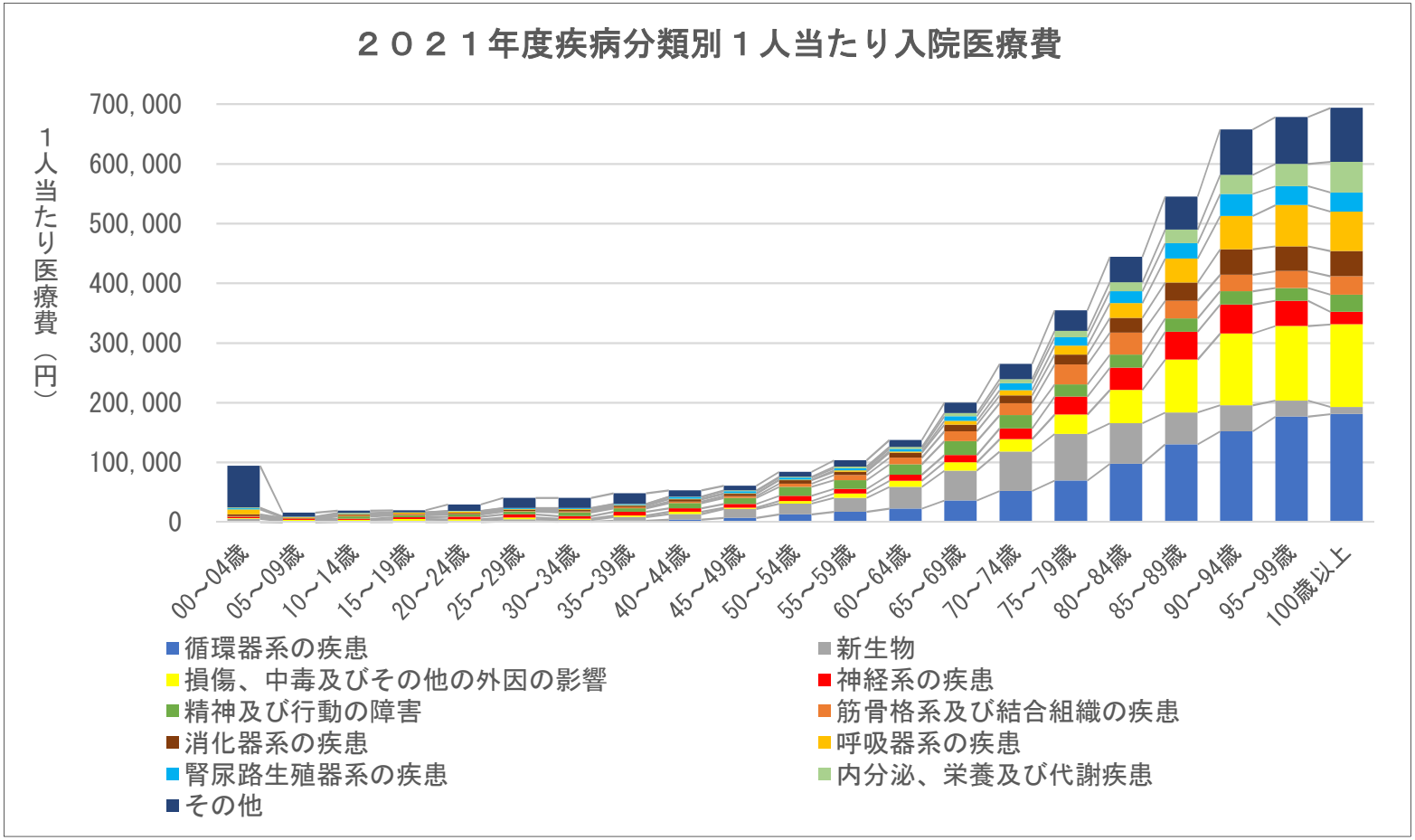
※ＮＤＢデータを基に集計。全国の数値は全国の年齢階層別１人当たり医療費に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した金額。

・「新生物」が45～49歳から多くなり、60歳代で大きく伸びて、70～74歳をピークにそれよりも高齢になると被保険者の減少に伴い減少。
・「循環器系の疾患」も60歳代から大きく伸び、さらに高齢化に伴い１人当たり医療費も伸びるため被保険者数が減少しても医療費は伸び続け、85～89歳をピークに減少に転じる。
・「損傷、中毒及びその他の外因の影響」が70歳代から多くなるが、このうち中分類では「骨折」が大部分を占め、85～89歳より高齢になると入院医療費に占める割合が「循環器系の疾患」に次いで２番目となる。

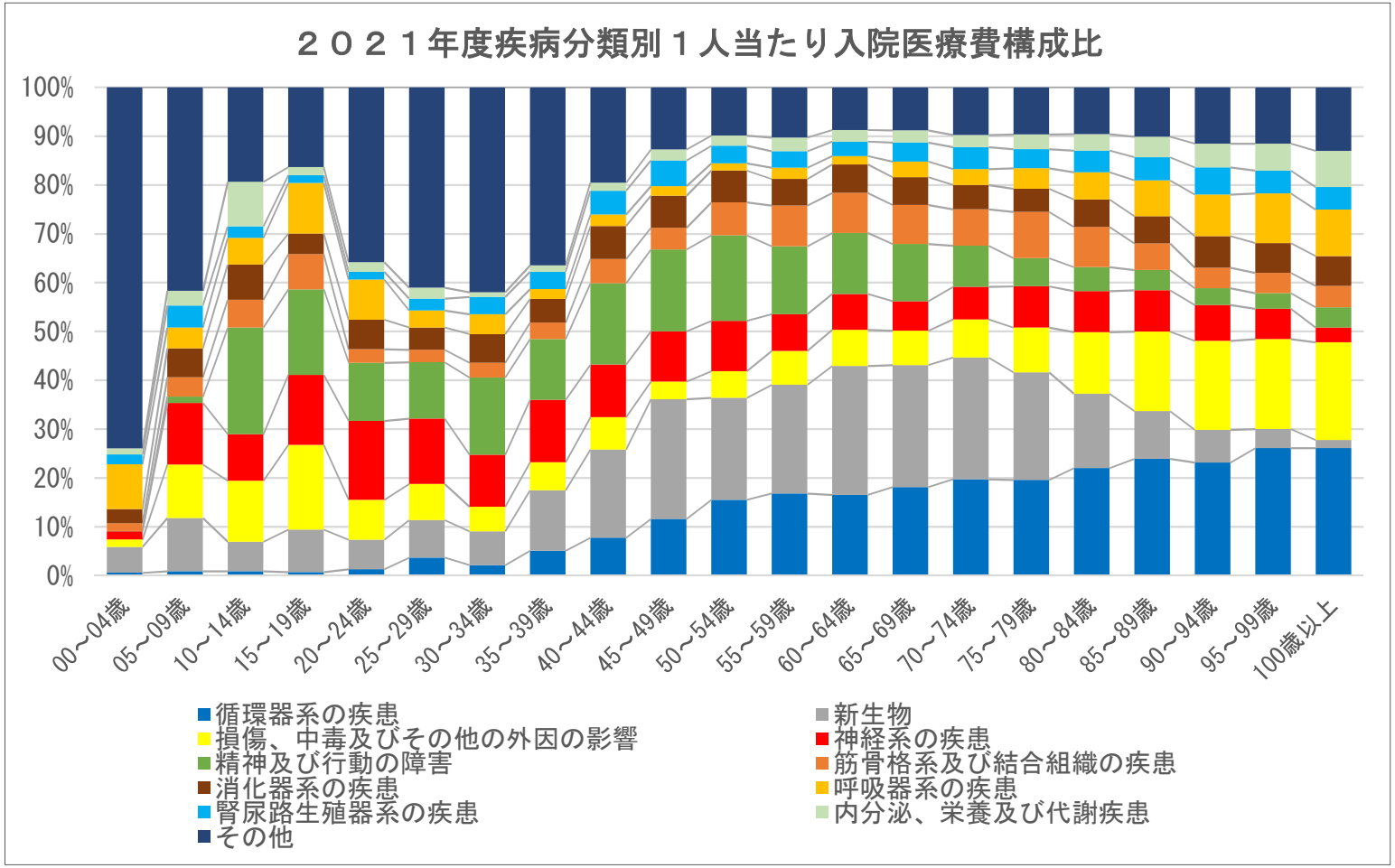


※１.被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、医療費が折れ線グラフ（目盛は左）
※２.医療費の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国
※３.全国の金額は、全国の被保険者１人当たり年齢階層別医療費を島根県の年齢階層別被保険者数に乗じて計算

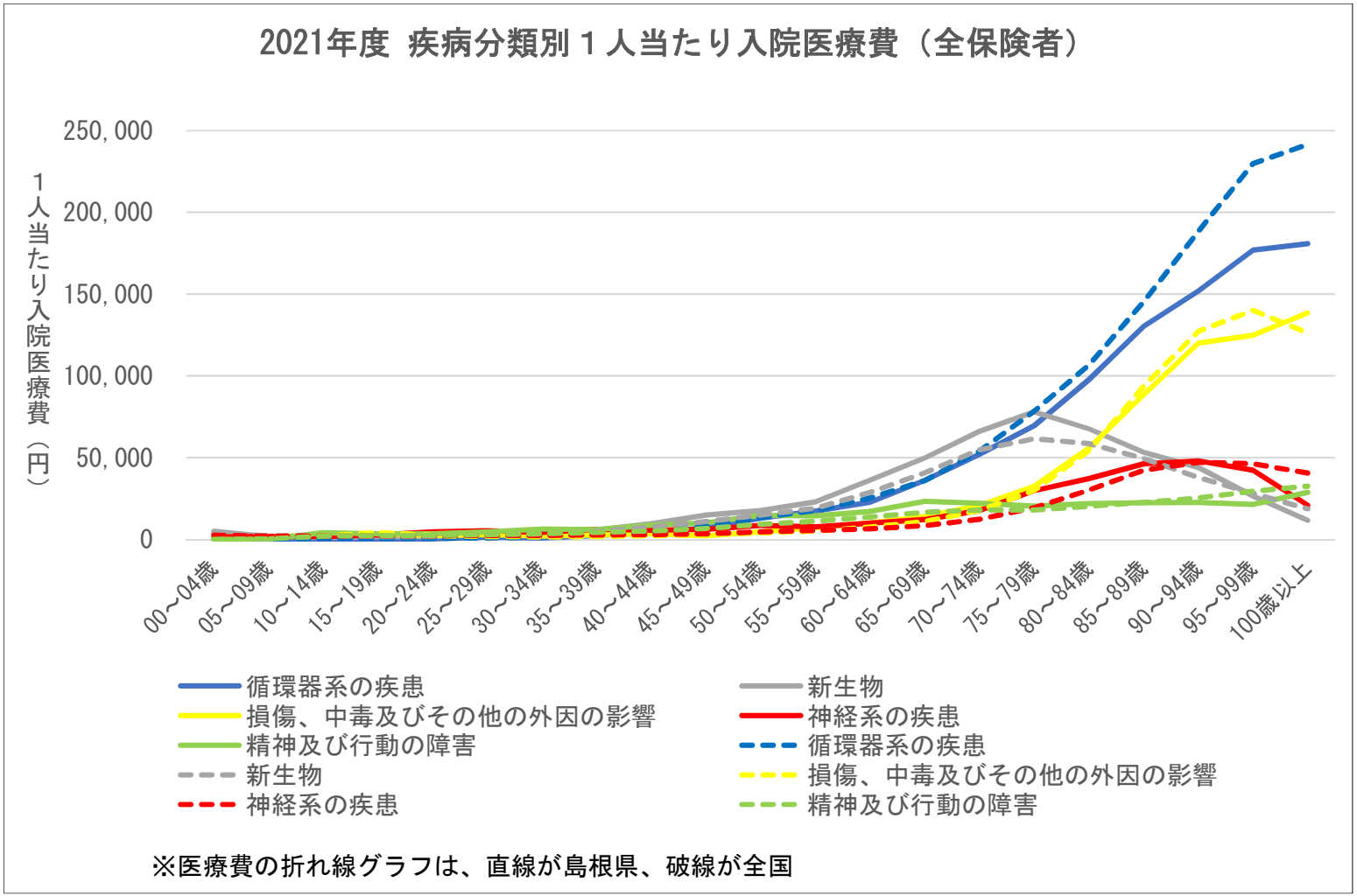
・被保険者１人当たりの入院医療費は60～64歳から急激に増加、より高齢になるほど増加し続け、後期高齢者となる75～79歳では55～59歳の3.5倍、80歳代では５倍前後となり、90歳以上では７倍弱になる。



・疾病分類別１人当たり医療費の構成比を年齢階層別で見ると10歳代では「精神及び行動の障害」が最も多く、20～30歳代までは「精神及び行動の障害」と「神経系の疾患」が同程度で多くなっている。
・40～70歳代までの間は「新生物」が最も多くなり80歳代よりも高齢になると「循環器系の疾患」が最も多くなる。



・疾病分類別では、55～59歳の年齢階層から「新生物」が急増し、75～79歳で最も多くなっており、それより高齢になると減少する。
・他の疾患は、全体的に高齢になるほど医療費が多くなるが、特に「循環器系の疾患」と「損傷、中毒及びその他外因の影響」の医療費が特に多くなっている。



②入院件数

・疾病分類別入院件数についても医療費と同様の傾向があり、「新生物」、「神経系の疾患」、「精神及び行動の障害」、「腎尿路生殖器系の疾患」及び「内分泌、栄養及び代謝疾患」が全国平均を大きく上回っている。

※全国の数値は、全国の年齢階層別１人当たり件数に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した件数

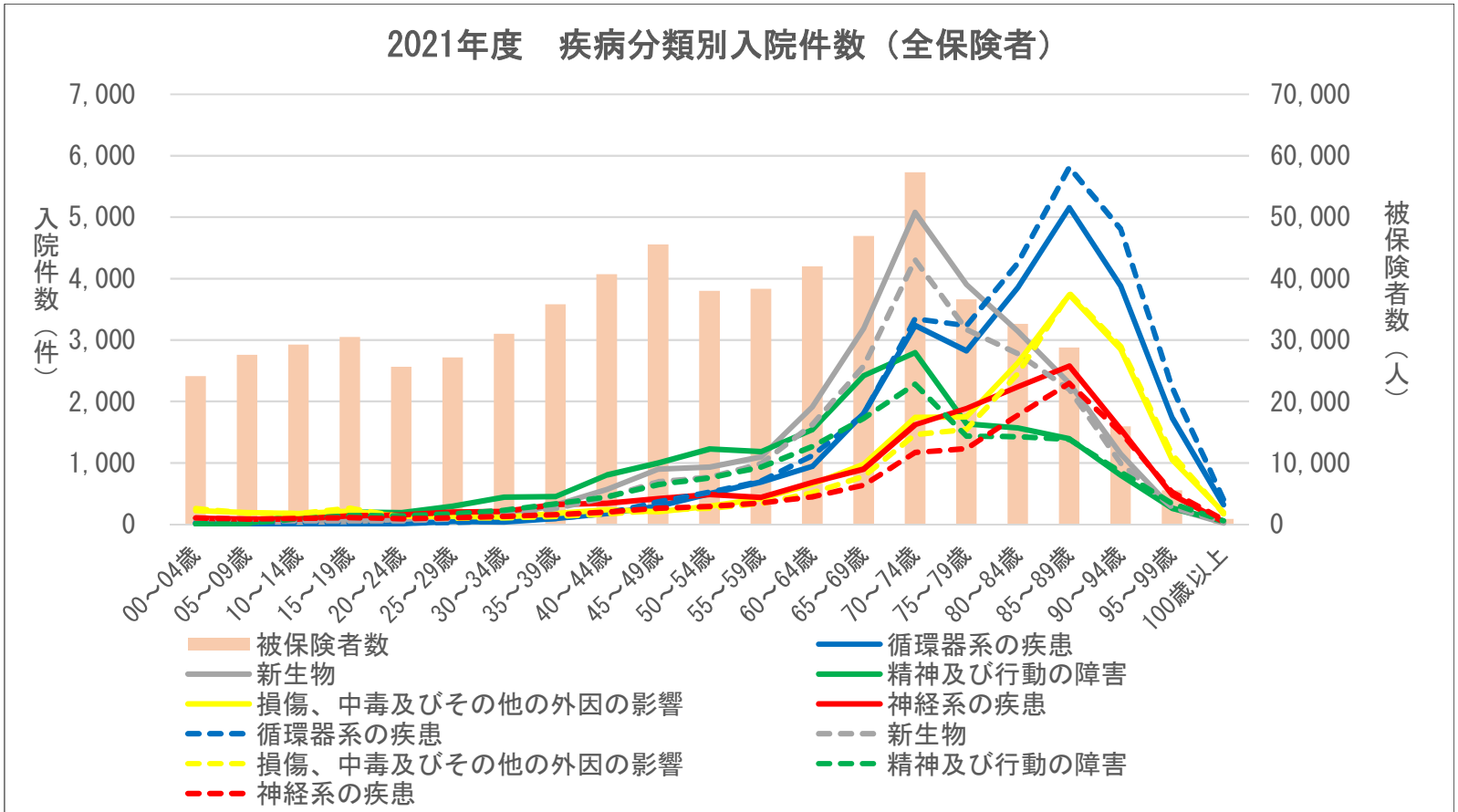
2021年度 疾病分類別入院件数（全保険者）

（単位：件）

	循環器系の疾患	新生物	損傷、中毒及びその他の外因の影響	神経系の疾患	精神及び行動の障害	筋骨格系及び結合組織の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	その他	全疾病計
島根県（A）	25,670	25,362	18,106	14,970	18,445	9,622	12,860	10,472	9,050	7,371	31,656	183,584
全国（B）	29,073	21,668	17,069	11,655	14,687	9,751	12,698	10,131	7,993	5,427	21,905	162,058
A／B	88.3%	117.0%	106.1%	128.4%	125.6%	98.7%	101.3%	103.4%	113.2%	135.8%	144.5%	113.3%

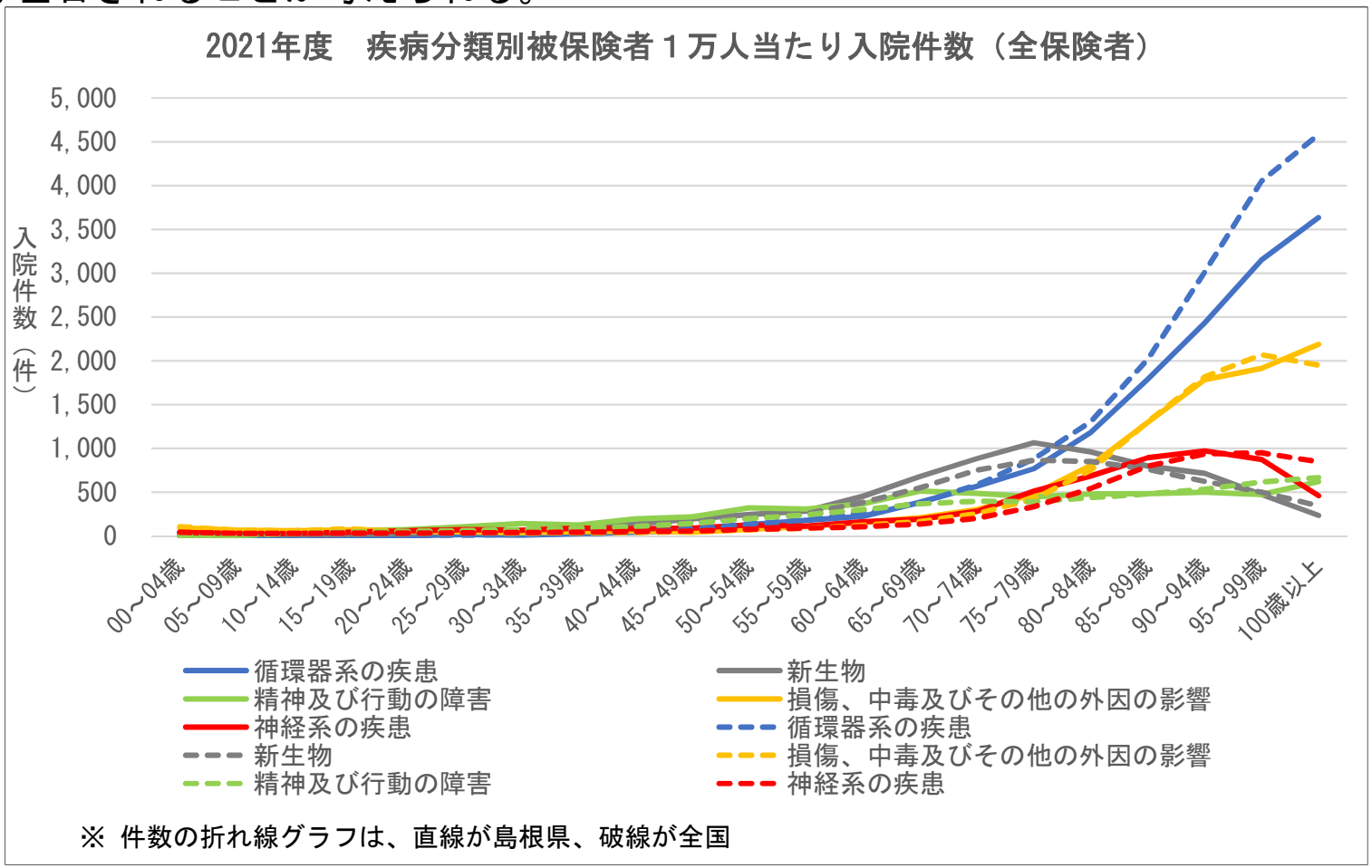
※ＮＤＢデータを基に集計。

・入院件数では、「循環器系の疾患」と「新生物」がほぼ同数で多く、次いで「損傷、中毒及びその他の外因の影響」と「精神及び行動の障害」がほぼ同数で続く。
・「精神及び行動の障害」は、他の疾病に比べて１件当たりの金額が低いため、入院医療費は他の疾病と比較すると金額的にはそれほど多くない様に見えるが、20～24歳から55～59歳までの年齢階層で件数が最も多く、思春期から子育て世代にかけて受診件数が他の疾病と比較して多いと思われる。



※１.被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、件数が折れ線グラフ（目盛は左）
※２.件数の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

・被保険者１万人当たりの入院件数は、全体的に高齢になるほど多くなる。特に「循環器系の疾患」、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」及び「呼吸器系の疾患」の増加が大きくなっている。
・入院医療費及び入院件数は60歳代から急激に増加するが、その内容は生活習慣病がかなりの部分を占めており、現役世代における生活習慣により、その増減が大きく左右されることが考えられる。



※ 件数の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

（２）入院外医療費等

①入院外医療費

・入院外医療費が多い疾患は、「循環器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「新生物」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「腎尿路生殖器系の疾患」と続く。

・入院外医療費は、全体では全国平均とほぼ同額であるが、「精神及び行動の障害」だけが全国平均を大きく上回っている。

※全国の数値は、全国の年齢階層別１人当たり医療費に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した金額

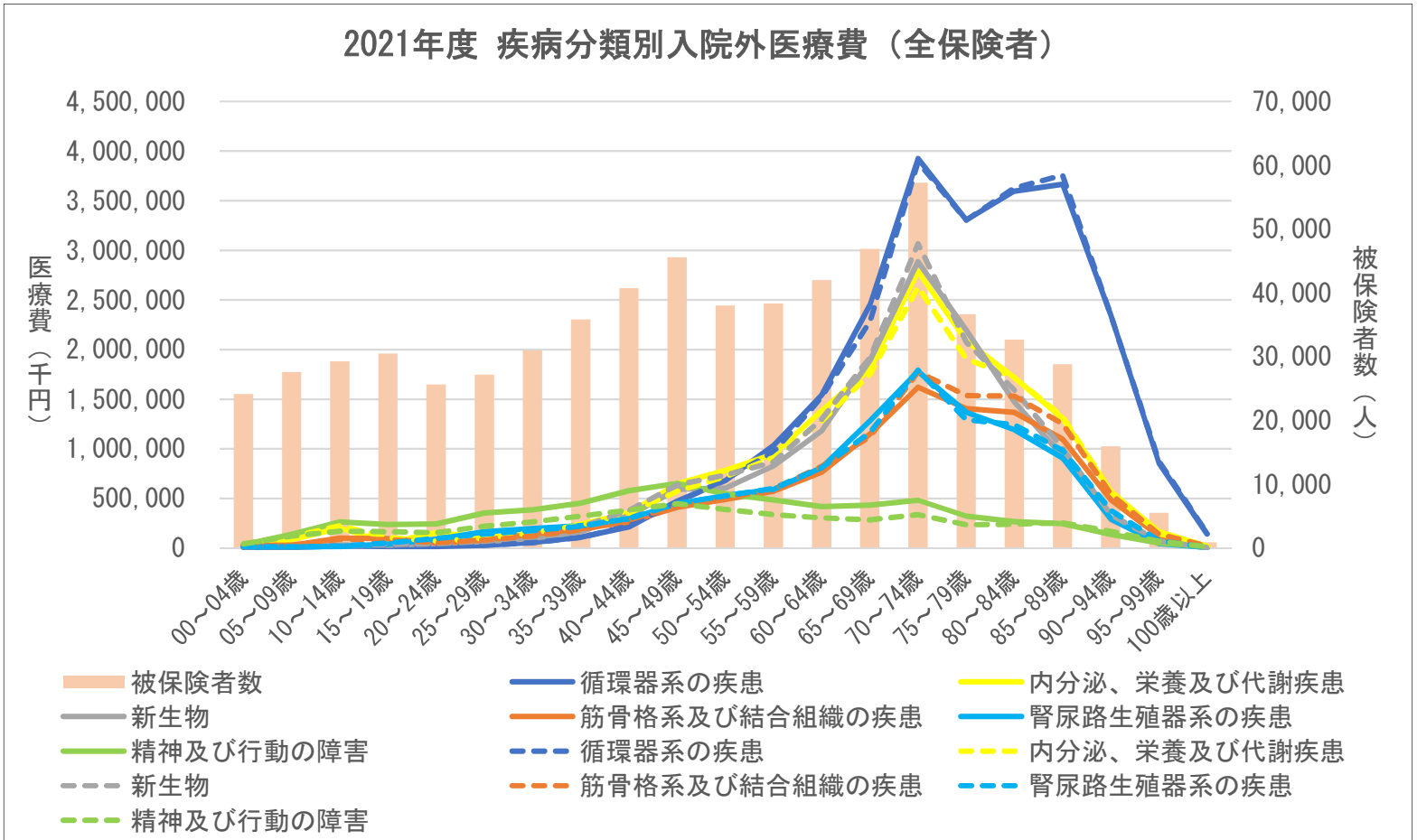
2021年度 疾病分類別入院外医療費（全保険者）

（単位：百万円）

	循環器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	新生物	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	呼吸器系の疾患	精神及び行動の障害	消化器系の疾患	眼及び付属器の疾患	神経系の疾患	その他	全疾病計
島根県（A）	24,493	15,592	13,723	10,483	10,316	8,414	6,744	6,680	5,809	5,273	18,416	125,942
全国（B）	24,395	14,945	14,517	11,231	10,351	8,526	4,921	6,601	6,438	5,156	19,268	126,350
A／B	100.4%	104.3%	94.5%	93.3%	99.7%	98.7%	137.0%	101.2%	90.2%	102.3%	95.6%	99.7%

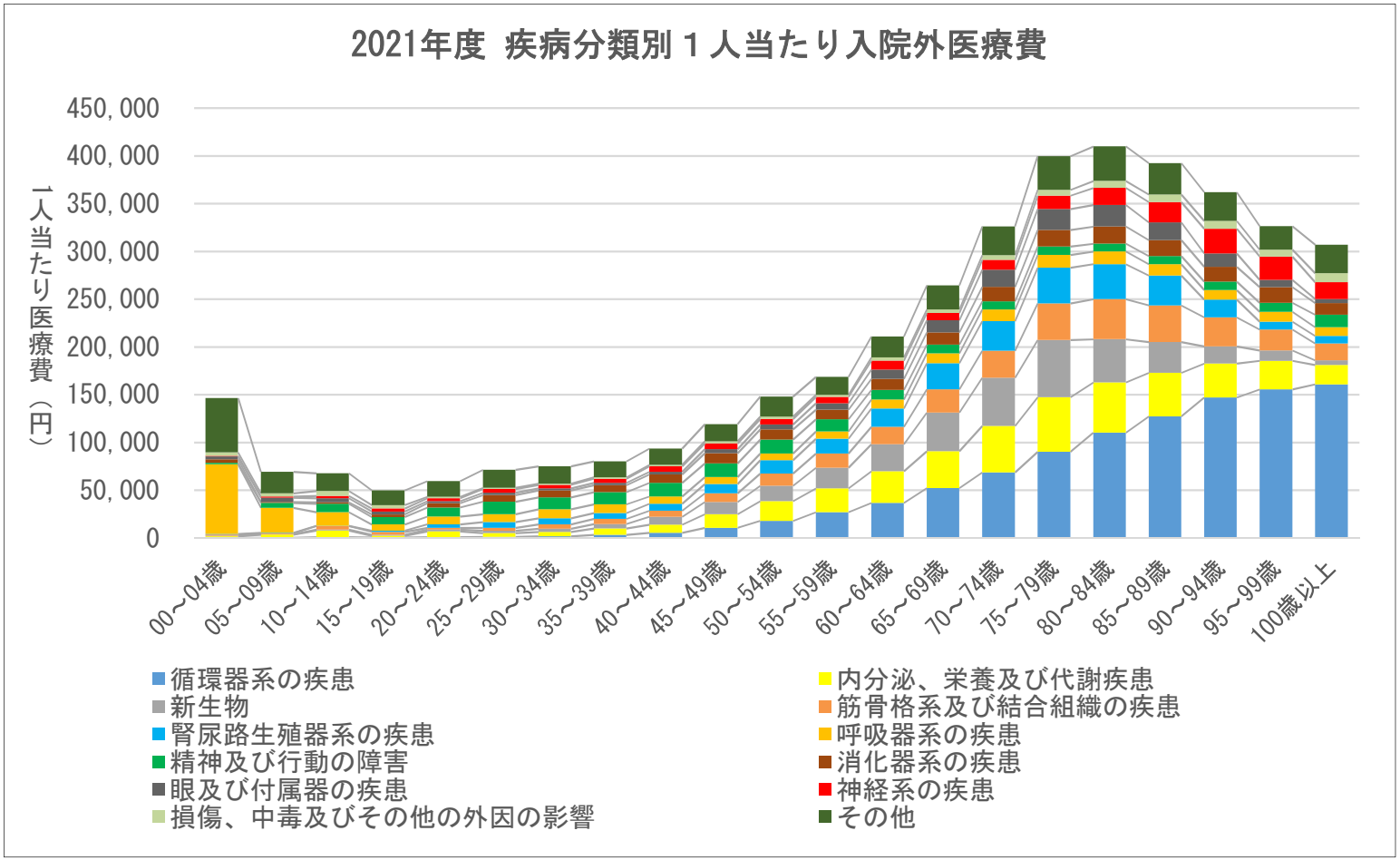
※ＮＤＢデータを基に集計。全国の数値は全国の年齢階層別１人当たり医療費に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した金額。

・年齢階層別で見ると15～19歳から45～49歳までは「精神及び行動の障害」が最も多く、50～54歳から「循環器系の疾患」、「新生物」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく伸びて、特に「循環器系の疾患」が最も多くなる。
・「腎尿路生殖器系の疾患」と「筋骨格系及び結合組織の疾患」も入院外では、45～49歳から医療費が大きく増加する。

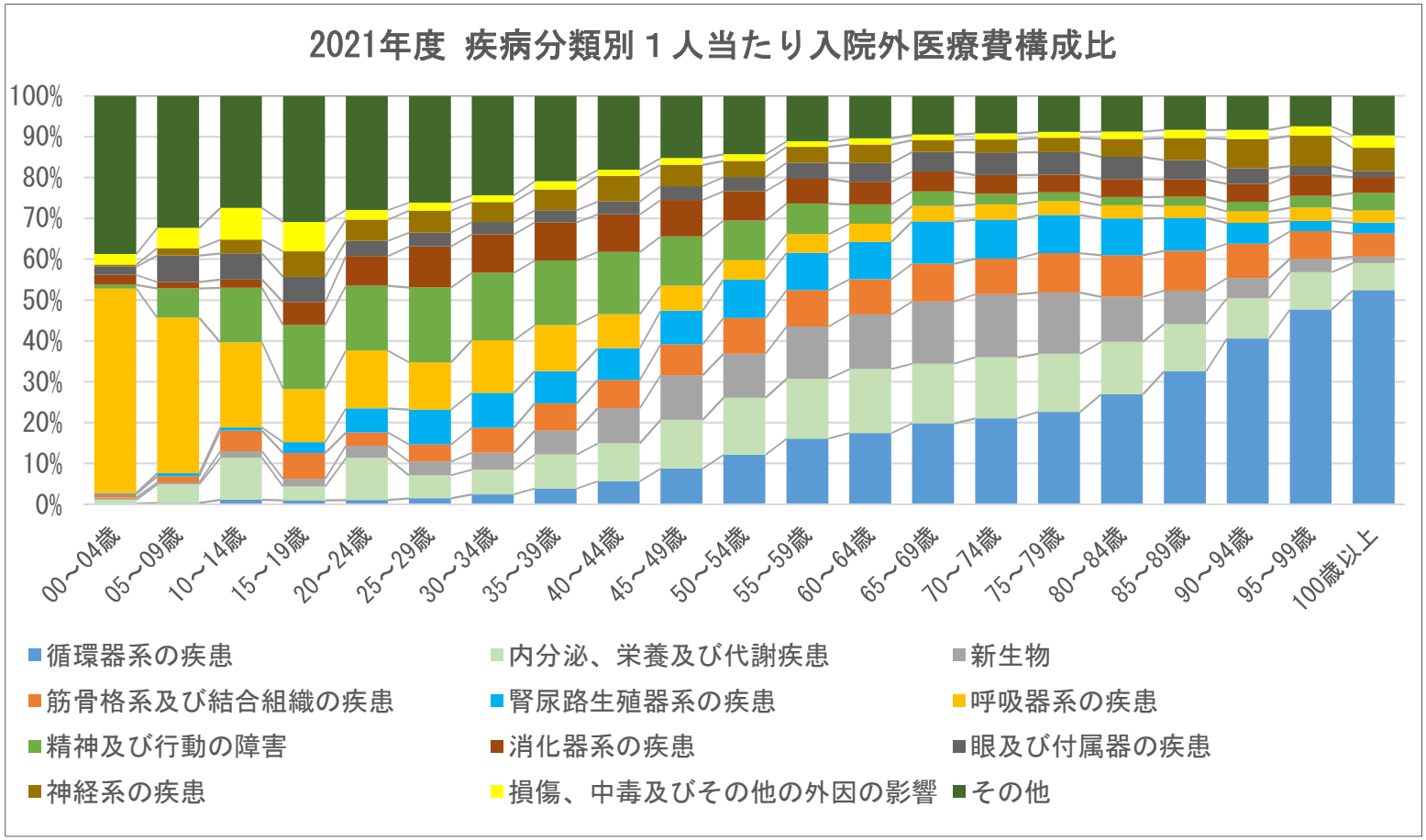


※１.被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、医療費が折れ線グラフ（目盛は左）
※２.医療費の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

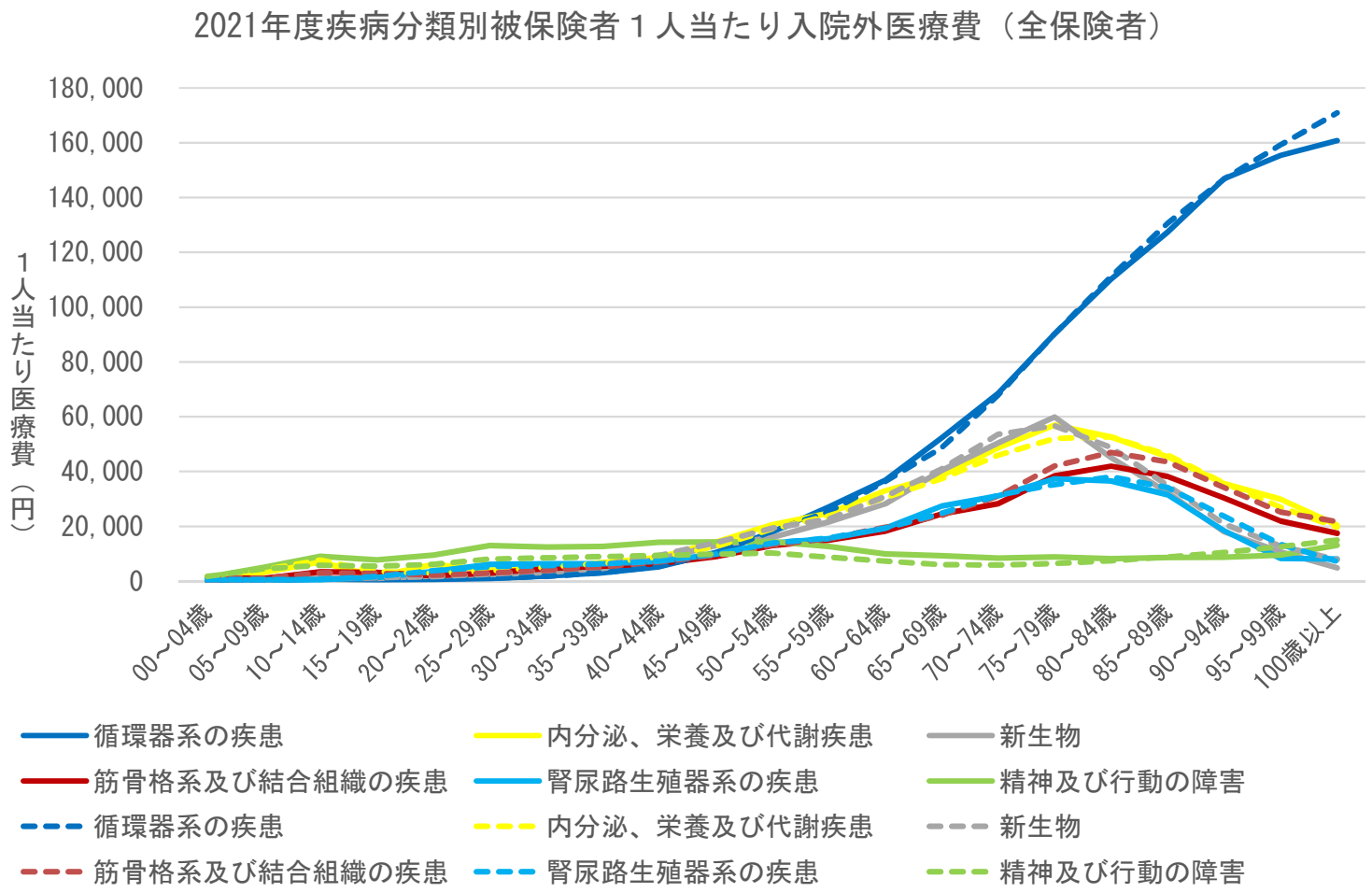
・被保険者１人当たりの入院外医療費は40～44歳の年齢階層から多くなり、ピークの80～84歳では35～39歳の４倍以上となる。



・１人当たり入院外医療費の構成比については、0～4歳から10～14歳の年齢階層までは「呼吸器系の疾患」が最も多く、15～19歳から45～49歳までは「精神及び行動の障害」が最も多くなる。
・50～54歳から「循環器系の疾患」、「新生物」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく伸びて、65～69歳より高齢な年齢階層では、「循環器系の疾患」が最も多くなる。



・ほとんどの疾患について、高齢になるほど１人当たり入院医療費が増加し、入院外医療費が減少するが、「循環器系の疾患」だけは１人当たり入院外医療費も増加し続ける。



※医療費の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

②入院外件数

・疾病分類別入院外件数で全国平均よりも特に多くなっているのは、「内分泌、栄養及び代謝疾患」と「精神及び行動の障害」。

・「循環器系の疾患」と「内分泌、栄養及び代謝疾患」については、入院外医療費は全国平均とほぼ同額であるが、件数は全国平均を上回っている。

※全国の数値は、全国の年齢階層別１人当たり件数に島根県の年齢階層別被保険者数を乗じて計算した件数

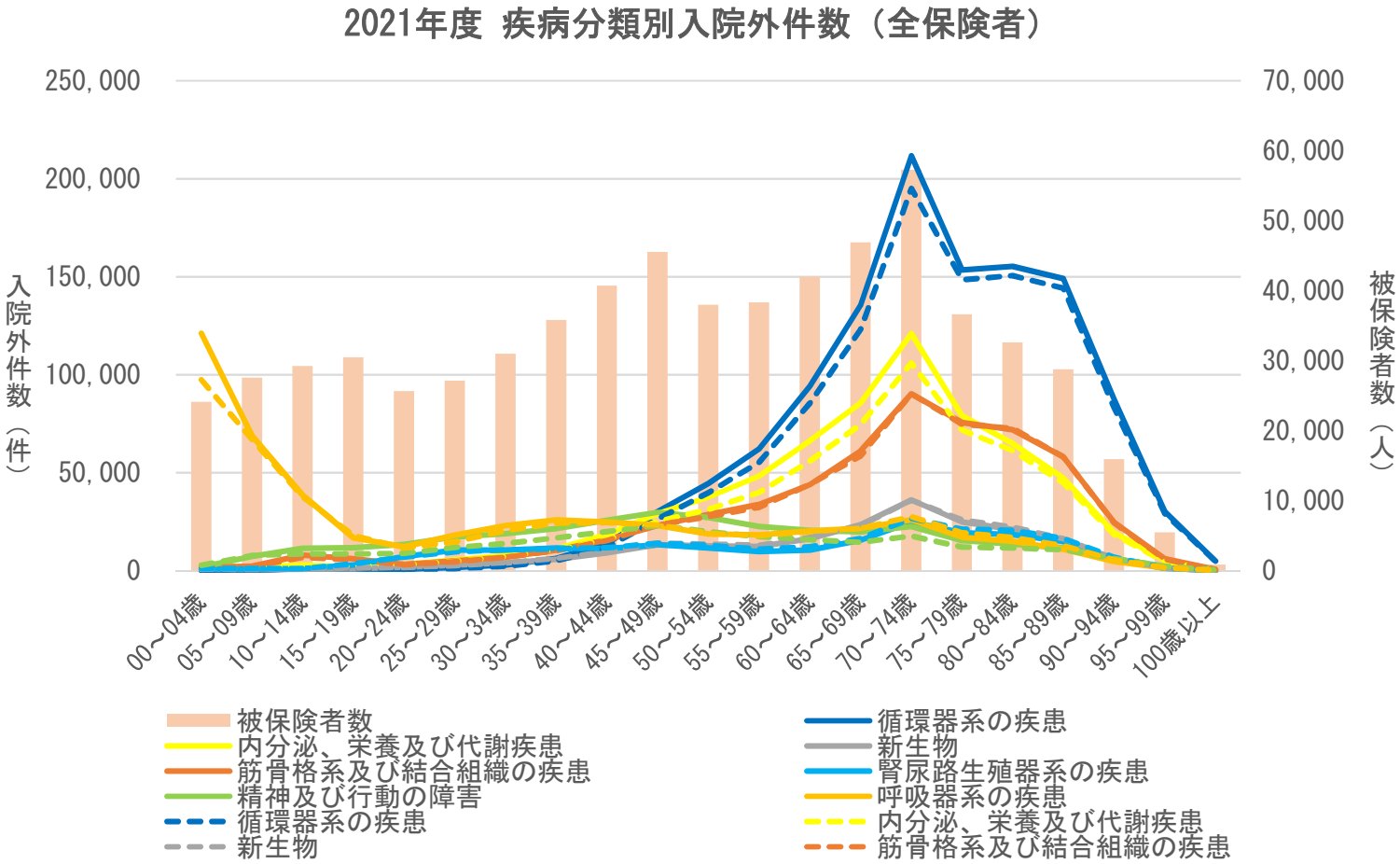
2021年度 疾病分類別入院外件数（全保険者）

（単位：件）

	循環器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	新生物	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	呼吸器系の疾患	精神及び行動の障害	消化器系の疾患	眼及び付属器の疾患	神経系の疾患	その他	全疾病計
島根県（A）	1,187,777	659,629	210,586	578,811	204,670	527,995	322,850	298,754	474,883	197,876	1,021,085	5,684,916
全国（B）	1,110,701	583,828	218,595	570,014	218,499	502,359	252,011	295,604	469,770	181,544	1,080,469	5,483,395
A／B	106.9%	113.0%	96.3%	101.5%	93.7%	105.1%	128.1%	101.1%	101.1%	109.0%	94.5%	103.7%

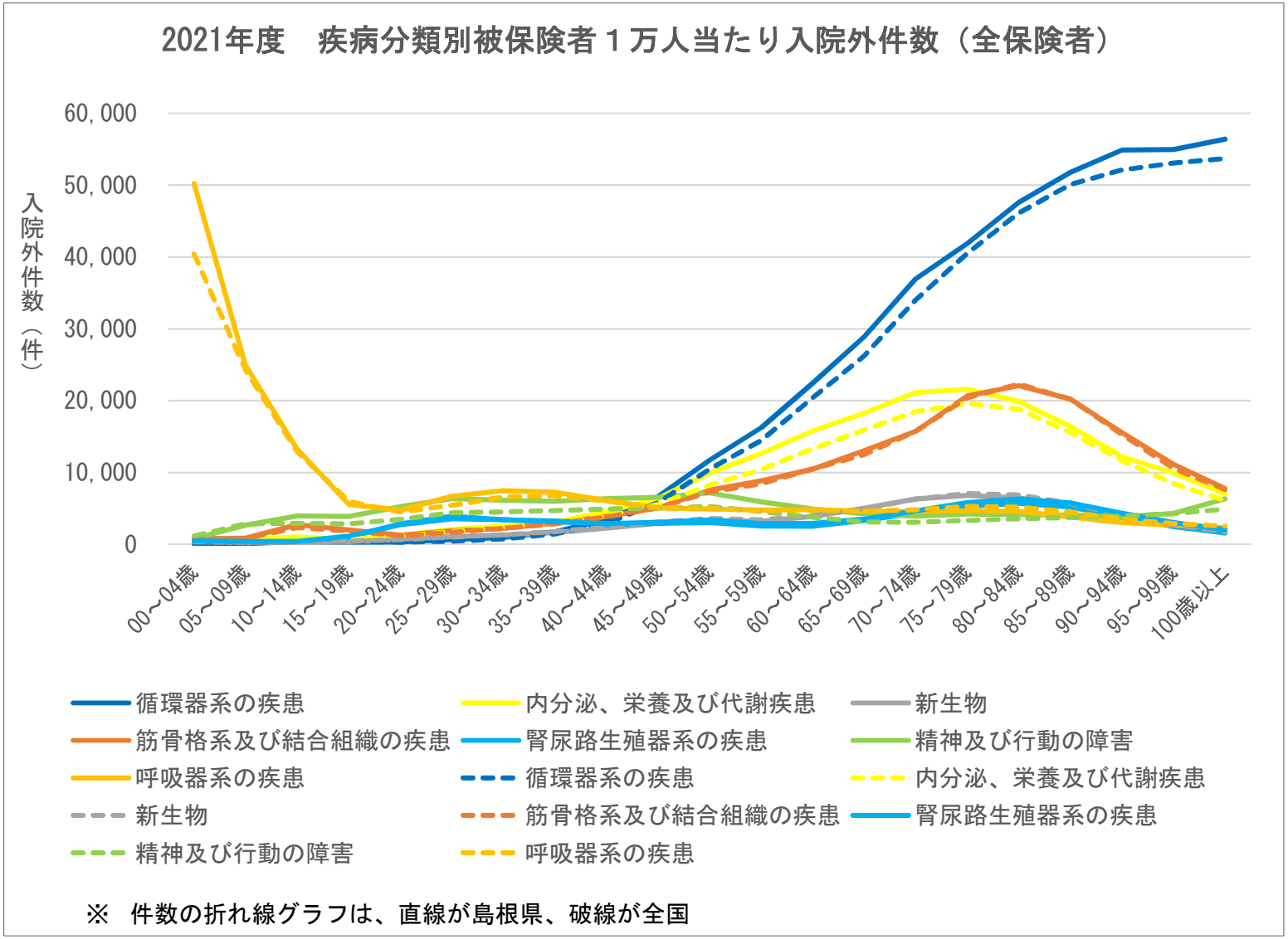
※ＮＤＢデータを基に集計。

・入院外件数では、15～19歳までは「呼吸器系の疾患」が最も多く、20～24歳から45～49歳までの間は「精神及び行動の障害」も同数程度で多くなっている。
・50～54歳からは、「循環器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」及び「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加、特に「循環器系の疾患」は85～89歳まで件数が多い状態が続く。



※１.被保険者数が棒線グラフ（目盛は右）、件数が折れ線グラフ（目盛は左）
※２.件数の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

・被保険者１万人当たり入院外件数は１人当たり入院外医療費と同様の傾向があり、年齢階層が高齢になると減少するが、「循環器系の疾患」だけは増加し続けるため、医療費も増加すると考えられる。



※　件数の折れ線グラフは、直線が島根県、破線が全国

４．医療費等に関するまとめ

・被保険者１人当たりの入院外費用、入院費用は高齢になるほど増加し、特に入院費用の額は60～64歳から急激に増加する。

・疾病分類でみると「高血圧性疾患」（「循環器系の疾患」）、「糖尿病」及び「高脂血症」等（「内分泌、栄養及び代謝疾患」）が増加した後の年齢階層から「新生物」が大きく増加、さらに生活習慣病が進んで、「虚血系心疾患」、「脳梗塞」、「脳内出血」等のより重篤な「循環器系の疾患」や「腎不全」などに繋がり、高齢になるほど医療費が急激に増加する。

・「新生物」は、全国と比較して増加する年齢階層が早く、さらに入院医療費及び入院件数ともに全国よりも多くなっている。

・「精神及び行動の障害」は、入院・入院外ともに医療費及び件数が全国より多くなっており、特に思春期から子育て世代にかけて医療費、件数ともに全国平均を大きく上回っている。

・また、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」のうち「骨折」の医療費が前期高齢者の年齢階層から増加し、後期高齢者では「循環器系の疾患」に次いで多くなる。
　「骨折」の１人当たり医療費は、高齢になるほど右肩上がりで増加しており、また要介護・要支援状態となる原因疾患の上位であり、高齢者の生活の質の維持の面からも、骨折の予防が重要となる。

・医療費の多くを占める生活習慣病は60歳以降で大きく増加するが、その原因は、現役世代からの生活習慣等によるもので、保険者と事業所が協力しながらその対策を行う必要がある。